



キルギス鉱業分野の現状と外資参 入が期待されるプロジェクト

鉍業

- 優先経済分野のひとつ
- 近年、鉍業セクターのGDPに占める割合は 9-10 %
- 同じく、二次産業の生産高に占める割合は 40-48 %.
- 税収に占める鉍業分野の企業からの納税金額の割合は約 9-11 %

クムトル鉍床



可採埋蔵量 – 254.7トン

2008年の生産量 – 17.3トン

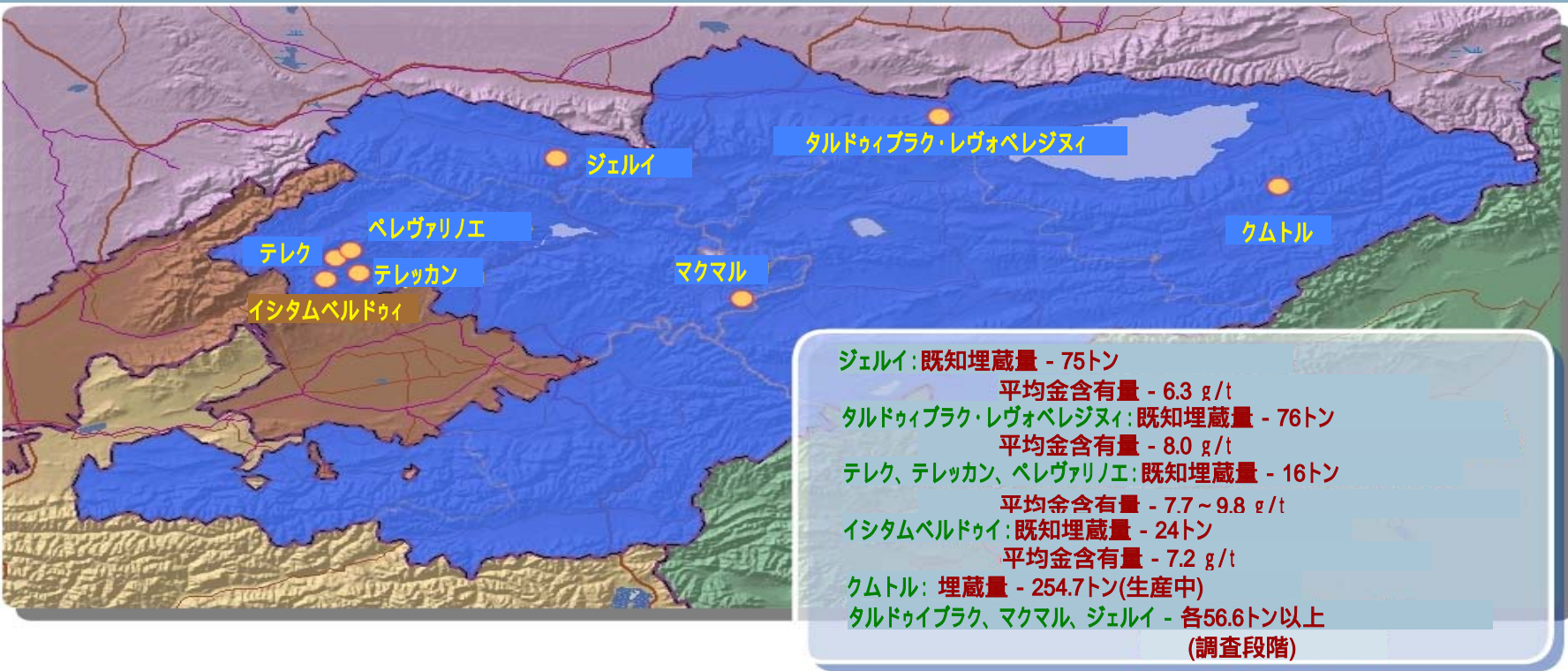
2009年の生産計画 – 19トン

キルギス共和国の鉱物資源



1. 建設材料となる資源を採掘している企業の占める割合は4,7%であり、この比率は国内需要により変化する。
2. 出炭量がエネルギー資源に対する国内需要をカバーしている比率は、20-25%である。
3. 採掘される原油とガスがエネルギー資源に対する国内需要をカバーしている比率は、5-7%である。

キルギス共和国の金鉱



1. マクマル金鉱
2. ジェルイ (アンダシュ金鉱、イシテムベルディ金鉱)
3. タルドゥイブラク・レヴォベレジヌイ

外資導入が期待できる鉱業プロジェクト

1) レアメタル鉱床「クテサイII」の開発

クテサイII鉱床の2006年1月1日現在の希土類元素の既知埋蔵鉱量と究極埋蔵量：鉱石2022万8千トン、平均含有量を0.25%としたときの希土類の総量5万1500トン、うち露天掘りファイナル・ピット・プロファイル内にある鉱量1170万トン、平均含有量を0.29%としたときの希土類の総量3万4300トン。

2) カッサン・アンチモン鉱床の開発

既知埋蔵鉱量は、鉱石112万3000トン、平均含有量を3.5%としたときのアンチモン量3万9100トン。浮遊選鉱によるプロダクション・リサーチを行った結果、アンチモンは回収率70.3～75.0%で精鉱品位30.2～41.6%、銀は回収率63.8～60.2%で品位31～43g/t、ヒ素0.6～1.2%、鉛1.43～2.05%の含有率が得られている。

外資導入が期待できる鉱業プロジェクト

3) バラ-チチカン・チタン磁鉄鉱鉱床の地質調査

全鉄含有量を(Fe₂O₃) 20.42%、磁鉄鉱品位 14.7%、鉱体の厚さを300 mとして潜在資源量が算定された。鉱石量は 32億1200万トン、磁鉄鉱4億7220万トン、二酸化チタン1億2690万トン、五酸化バナジウム370万トンである。

4) 金埋蔵量 31.5トンのジャラル・アバド州テレク・サイ地区の金鉱床（テレカン、テレク、ペレヴァリノエ）開発入札への参加

テレク・サイ地区の金鉱床（テレカン、テレク、ペレヴァリノエ）はジャラル・アバド州チャトカル行政地区にあり、相互の距離とテレク・サイ集落までの距離は2～5kmある。この地域は経済開発が進んでおり、インフラが発達している。これらの鉱床の究極既知埋蔵量と潜在資源量は鉱石1300万トン、金62.0トン（平均品位4.7g/t）と算定されている。

外資導入が期待できる鋳業プロジェクト

5) 地質学的総埋蔵量9000万トンのカラ・ケチェ露天掘り炭田開発入札への参加

採炭場およびバルイクチャからカラ・ケチェまでの鉄道引込線181 km、ならびにミンクシユでの火力発電所(電熱併給)建設に8億6千万米ドルの投資が必要。このプロジェクトにより年間出炭量を最大5百万トンにすることができ、600メガワットの火力発電所の運転を確保することができる。

6) ハイダルカン水銀コンビナート民営化への関与。コンビナートは生産設備を一新して、生産性の良い製品ができるようにする必要がある。

ハイダルカン鋳床とノーヴォエ鋳床は互いに踵を接するような位置にあり、ハダルカン水銀コンビナートが採掘を行っている。ハイダルカン鋳床の残存既知鋳量は750万トン、水銀1万1300トン、アンチモン6万トン、蛍石61万4000トンである。ノーヴォエ鋳床の既知埋蔵鋳量は350万トン、水銀5500トン、アンチモン4万8000トン、蛍石46万トンである。

コンビナートの民営化を成功させるためには、精鋳所を含め鋳山設備全体を一新しなければならない。

ご清聴ありがとうございました!